

令和6年度オープンキャンパスを開催  
ノーベル賞メダル公式レプリカ寄贈セレモニーを開催  
第1回北大女性教授ネットワーキングの会を開催

お知らせ

・被扶養者の要件の確認



## 全学ニュース

- 1 ノーベル賞メダル公式レプリカ寄贈セレモニーを開催
- 2 教育関係共同利用拠点に2拠点が再認定
- 3 レンセラー工科大学と半導体分野における合意書を締結
- 4 現代日本学プログラム課程「ゲストレクチャー・ワークショップシリーズ」を開催
- 5 令和6年度オープンキャンパスを開催
- 7 総長記者懇談会を開催
- 8 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- 10 創成研究機構化学反応創成研究拠点とListプラットフォームが第2回シンポジウムを開催
- 11 大学院共通授業科目「ビジネス基礎Ⅱ」にて企業連携講義を実施
- 12 チュラロンコン大学・香港大学・北海道大学が共同でジョイントサマーキャンプ2024を開催
- 13 THEインパクトランキング5年連続国内1位を称える楯を拝受
- 14 「北海道大学サステナビリティ宣言」を策定
- 15 北海道マラソン2024と連携しSDGs農園プロジェクトを実施
- 16 総合博物館令和6年度夏季企画展「北大の探求心2024」で本学のSDGs活動を紹介
- 17 HSI科目「国際SDGs入門」を開講
- 18 ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」で「無料で健康チェック！」を実施
- 19 「環境広場さっぽろ2024」で本学のサステナビリティに関する取り組みを紹介
- 20 大学院教育推進機構リカレント教育推進部が2024年度前期北大道新アカデミーを開講
- 21 第1回北大女性教授ネットワーキングの会を開催
- 22 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 今年度は29名の研究者が参加



チュラロンコン大学・香港大学・北海道大学が共同でジョイントサマーキャンプ2024を開催



北海道マラソン2024と連携しSDGs農園プロジェクトを実施



レンセラー工科大学と半導体分野における合意書を締結



創成研究機構化学反応創成研究拠点とListプラットフォームが第2回シンポジウムを開催

## 部局ニュース

- 24 韓国漢字研究所と教育学研究院の交流を実施
- 25 公共政策大学院が「2024年度HOPS地方議員・公務員向けサマースクール」を開催
- 26 歯学研究院で「若手研究者のための科研費申請書の書き方セミナー」を開催
- 27 歯学研究院・歯学院・歯学部がランシット大学と部局間交流協定を締結
- 28 薬学研究院が「第19回薬学研究院研究発表会」を開催
- 29 農学部・農学院とシンガポール国立大学間で「Joint Summer Programme in Japan and Singapore」を開催
- 30 メディア・コミュニケーション研究院が中国人民大学新聞学院と学術交流協定を締結
- 31 低温科学研究所がオホーツク生活文化振興財団と連携協定を締結
- 32 スラブ・ユーラシア研究センターがサマースクールを開催
- 33 寶金清博総長が北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林を視察
- 34 北管理部で初の北大研究林サイエンス体験ツアーを開催
- 35 高尾医学大学前学長らが環境健康科学研究教育センターを訪問
- 36 学生相談総合センターピアサポートユニット留学生部門（留学生サポート・デスク）主催の「流しそうめん大会」を開催
- 37 学生相談総合センター留学生相談室主催「ゼンゼミ2024」を開催

## お知らせ

- 38 被扶養者の要件の確認

## 表敬訪問 39

## 人事 40

- 41 新任監事紹介
- 42 新任教授紹介



「環境広場さっぽろ2024」で本学のサステナビリティに関する取り組みを紹介



「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 今年度は29名の研究者が参加

表紙：ノーベル賞メダル公式レプリカ寄贈セレモニーを開催（関連記事1頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景④ 工学部噴水（北13条西8丁目）



## ■全学ニュース

# ノーベル賞メダル公式レプリカ寄贈セレモニーを開催

令和3年にノーベル化学賞を受賞した創成研究機構化学反応創成研究拠点（以下、ICReDD）のベンジャミン・リスト特任教授から、ノーベル賞メダルの公式レプリカが寄贈され、8月28日（水）に総合博物館にて、ノーベル賞メダル公式レプリカ寄贈セレモニーが開催されました。

ノーベル賞メダルの公式レプリカは、受賞者がノーベル財団から三個を上限に作成を許可される貴重なもので、そのうちの 하나가本学に寄贈されました。

ICReDDの主任研究者であるリスト特任教授は、ICReDDが設置された平成30年当初より主任研究者として参画し、ICReDDにおける計算（理論）科

学・情報科学・実験科学の三分野融合による化学反応開発に取り組んできました。ICReDDが掲げるスローガン“Revolutionize Chemical Reaction Design and Discovery”（化学反応設計と発見の革新）は、リスト特任教授の考案によるものです。

リスト特任教授へは、令和4年にユニバーシティプロフェッサーの称号が授与され、令和5年4月からはリスト特任教授を中心とした次世代有機触媒開発を目指す研究プロジェクト「Listサステナブル DX 触媒連携研究プラットフォーム（Listプラットフォーム）」が始動しています。

リスト特任教授には、ノーベル賞受賞前からのICReDDとの縁と、ユニバ

ーシティプロフェッサーの称号への感謝の気持ちから、北海道大学を「研究における第二のホーム」と感じているとして、かねてよりメダル公式レプリカを寄贈したいとの意向がありました。この度の寄贈にはそうした北海道大学への感謝の意と、次世代を担う若い世代へ向けた「自分自身の熱意を追い続けること」というメッセージが込められています。メダル公式レプリカは、広く一般の方々へも見ていただきたいとのリスト特任教授の想いから、準備が整い次第、総合博物館に展示される予定です。

（創成研究機構化学反応創成研究拠点、総合博物館）



リスト特任教授から寛金清博総長へのメダル寄贈



総合博物館にて、来館者へのメッセージと共に

※写真提供：広報・社会連携本部

## 教育関係共同利用拠点に2拠点が再認定

教育関係共同利用拠点のうち、大学院教育推進機構（高等教育研修センター）及び北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション（臼尻水産実験所、七飯淡水実験所及び忍路臨海実験所）の2拠点について、認定期間が今年度末までとなっていたことから、再認定の申請を行っていたところ、7月30日（火）付けで文部科学大臣から再認定されました。

教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ、質の高い教育を提供していくこと

を目的として、各大学が保有する施設の共同利用を推進するものであり、本学は全国最多となる以下の5拠点が認定されています。

大学院教育推進機構（高等教育研修センター）は、高等教育機関の教職員等として必要な資質・能力の向上を図るための研修を実施し、教育、研究及び業務全般の高度化並びに国際化を支援する研修拠点です。

また、北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション（臼尻水産実験所、七飯淡水実験所及び忍路臨海実

験所）は、異なる三水系で環境・水産増養殖・生物・人間活動に関する教育研究を実施し、全国の学生に優れた体験教育を提供する教育拠点です。

今回の再認定を契機として、これらの拠点の活動によりますます他大学との連携が強化されることと、多様で高度な教育を展開していくことが期待されます。

（総務企画部企画課）

|   | 施設名                                                    | 拠点名                                                        | 認定期間                                  | 当初認定   |
|---|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|---------------------------------------|--------|
| 1 | 水産学部附属練習船おしよろ丸                                         | 亜寒帯海域における洋上教育のための共同利用拠点                                    | 2021.4<br>～<br>2026.3                 | 2011.4 |
| 2 | 北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション                              | フィールドを使った森林環境と生態系保全に関する実践的教育共同利用拠点                         | 2022.4<br>～<br>2027.3                 | 2012.7 |
| 3 | 北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション<br>（厚岸臨海実験所、室蘭臨海実験所）          | 寒流域における海洋生物・生態系統合教育の国際的共同利用拠点－海洋の生態系機能とその持続的利用について学ぶ－      | 2022.4<br>～<br>2027.3                 | 2012.7 |
| 4 | 大学院教育推進機構<br>（高等教育研修センター）                              | 自律的学習を促進する研修プログラム開発拠点                                      | 2025.4<br>～<br>2028.3<br><b>【再認定】</b> | 2015.7 |
| 5 | 北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション<br>（臼尻水産実験所、七飯淡水実験所及び忍路臨海実験所） | 食糧基地、北海道の水圏環境を学ぶ体験型教育共同利用拠点－特色ある水圏生態系の理解に基づく産業グローバルな視野の醸成－ | 2025.4<br>～<br>2030.3<br><b>【再認定】</b> | 2015.7 |



高等教育研修センターでの研修の様子



水圏ステーション（臼尻水産実験所）でのバイオリギング実習の様子



## レンセラー工科大学と半導体分野における合意書を締結

8月20日（火）（現地時間）、實金清博総長がレンセラー工科大学（米国）を訪問し、マーティン・A・シュミット学長との間で、半導体分野における人材育成・研究活動での協力をともに検討していくための合意文書に署名しました。締結式には、鈴木直道北海道知事とRapidus株式会社の小池淳義代表取締役社長が同席しました。

レンセラー工科大学は、半導体分野の研究開発で世界有数のエコシステム

を有するニューヨーク州において、オールバニー・ナノテク・コンプレックス、IBMなど、この地域の半導体の主要な機関と緊密な関係を有し、半導体分野における教育及び研究において先進的な取組を行っています。

實金総長のレンセラー工科大学訪問を契機に、半導体分野の人材育成・研究力向上の必要性を共有している両大学の連携について意見交換を進め、この度の合意文書締結に至りました。

### 【實金総長コメント】

北海道大学は、半導体の高度人材育成及び研究推進に関する体制構築を加速度的に進めています。

今回、米国の半導体分野において先進的な取組を行っているレンセラー工科大学と関係が構築され、半導体分野に関する連携の模索を進めることで、より質の高い教育を提供することが期待できるとともに、研究力の向上に資するものと考えています。

（総務企画部企画課）



合意書署名後の集合写真（左から小池社長、鈴木知事、實金総長、シュミット学長、レンセラー工科大学プロボストのレベッカ・ドールジュ氏、IBM半導体部門ゼネラルマネージャー・ハイブリッドクラウド研究担当バイスプレジデントのムケシュ・カレ氏。写真：レンセラー工科大学提供、撮影者：クリス・クア（レンセラー工科大学））

# 現代日本学プログラム課程 「ゲストレクチャー・ワークショップシリーズ」を開催

現代日本学プログラム課程（現プロ）では、令和6年度1学期に、対面による「ゲストレクチャー・ワークショップシリーズ」を開催しました。

本シリーズは、学内外の日本研究の専門家を招き、現代日本学の最先端について英語で学ぶことを目的とし、主に現プロ学生を対象として開催してい

ます。昨年度に引き続き石見 禎講師（高等教育推進機構国際教育研究部・現代日本学ユニット）がコーディネーターとなり、日本研究をテーマとして、多彩な講師による講演を8回にわたって実施しました。学内から延べ人数180名以上が出席し、現代日本学の諸相を学びました。

現プロでは今年度2学期以降も、現プロ学生のみならず、学内外からの参加者の現代日本への学びをさらに深め実学の涵養を目指し、より一層魅力的なゲストレクチャー及びワークショップを実施する予定です。

（学務部教育推進課）

## 実施内容

- ・ 5月17日（金） 「North Korea as a "Security Vaccine"? - Japan-North Korea Relations and Its Implications on Japanese Security Policy Transformations」  
李 承赫准教授（東北学院大学）
- ・ 5月21日（火） 「Japan's Security Strategy in the Indo-Pacific Region: Focusing on Taiwan, the Pacific Island States, and India」  
酒井英一准教授（関西外国語大学）
- ・ 5月24日（金） 「日本を再発見する」  
5月25日（土） 島津清彦代表取締役社長（株式会社シマーズ・ネクスト）
- ・ 6月16日（日） 「What I wish I knew when I was a (MJSP) student」  
ドン・ヴァン氏（Toyota Tsusho America Inc.）
- ・ 6月21日（金） 「Playing a Bigger Game VS Doing Your Business as Usual」  
6月22日（土） 津村英作代表取締役（ヒューマンエデュケア）
- ・ 6月28日（金） 「No Risk, No Gain! "Building up your successful life」  
白尾直樹チーフストラテジーオフィサー（株式会社シマーズ・ネクスト）
- ・ 7月12日（金） 「Involuntary Consent: The Illusion of Choice in Japan's Adult Video Industry」  
竹山明子教授（カンザス大学）
- ・ 8月5日（月） 「Exploring Cultural Connections: The Case of Okinawa's Yanbaru Pineapple in the Context of Japan and Taiwan」  
菅野敦志教授（共立女子大学）



李准教授（東北学院大学）による講演



竹山教授（カンザス大学）による講演



## 令和6年度オープンキャンパスを開催

8月3日（土）から5日（月）までの3日間、札幌・函館の両キャンパスにおいて、オープンキャンパスを開催しました。

今年度は、主に4日（日）に小・中学生等も参加可能な「自由参加プログラム」を、5日（月）には、高校生及び高等専門学校生のみが参加可能な

「高校生限定プログラム」を実施しました。

天候にも恵まれ、多数の参加者が、学部等が企画した説明会や模擬講義・ゼミの他、実習・実験や見学会等の多彩なプログラムに参加しました。キャンパス内には、公認サークルの北大カフェプロジェクトによる「オープン

キャンパスカフェ」も出店し、オリジナルのコーヒー豆や茶葉を使用した飲み物が提供される等、開催当日は保護者等も含め大勢の参加者でキャンパスが賑わいました。

（アドミッション本部）



参加者で賑わう札幌キャンパス



参加者で賑わう札幌キャンパス



北大カフェプロジェクトによるオープンキャンパスカフェ



アドミッション本部主催の講演会・説明会の様子

## 令和6年度オープンキャンパス 参加者数

| 学部等名                   | 自由参加プログラム     | 高校生限定プログラム   | 部局等別合計        |
|------------------------|---------------|--------------|---------------|
| 文学部                    | 719           | 61           | 780           |
| 教育学部                   | 203           | 71           | 274           |
| 法学部                    | 408           | 85           | 493           |
| 経済学部                   | 355           | 209          | 564           |
| 理学部                    | 1,299         | 52           | 1,351         |
| 医学部医学科                 | 337           | 88           | 425           |
| 医学部保健学科                | 291           | 340          | 631           |
| 歯学部                    | 65            | 88           | 153           |
| 薬学部                    | 448           | 494          | 942           |
| 工学部                    | 1,064         | 327          | 1,391         |
| 農学部                    | 226           | 144          | 370           |
| 獣医学部                   | 315           | 39           | 354           |
| 水産学部                   | 330           | 160          | 490           |
| 大学院環境科学院               | 336           |              | 336           |
| 附属図書館（本館・北図書館）         | 57            |              | 57            |
| 国際交流課                  | 37            |              | 37            |
| サステイナビリティ推進機構          | 28            | 50           | 78            |
| 大学院教育推進機構CoSTEP        |               | 11           | 11            |
| 各種個別相談会（注1）、講演・説明会（注2） | 282           |              | 282           |
| 北大キャンパスビジットプロジェクト      | 45            | 59           | 104           |
| 大学文書館                  | 145           |              | 145           |
| 総合博物館                  | 8,254         |              | 8,254         |
| <b>総合計</b>             | <b>15,244</b> | <b>2,278</b> | <b>17,522</b> |

（注1）各種個別相談会の内訳

初年次教育・学部移行個別相談（教育推進課）、新渡戸カレッジ個別相談（新渡戸カレッジ）、学生生活個別相談（学生寮・奨学金等）（学生支援課）、学生相談総合センターアクセシビリティ支援室個別相談、キャリアセンター就職個別相談（キャリア支援課）、入試個別相談（アドミッション本部）

（注2）講演・説明会の内容

「北海道大学で学ぶということ」（アドミッション本部）、「新渡戸カレッジへのいざない 目指せ！北大発グローバルリーダー」（新渡戸カレッジ）、「スカラシップアドバイザーによる日本学生支援機構奨学金説明会」（学生支援課）

## 総長記者懇談会を開催

9月4日（水）、本学総長と地元記者との交流を深めることを目的とした「記者懇談会」を開催しました。懇談会には、本学から寶金清博総長、高橋 彩理事（広報統括）、黒岩麻里総長補佐、杉浦真由美総長補佐、南波直樹教授（広報・社会連携本部広報・コミュニケーション部門長）らが出席し、北海道教育記者クラブ加盟社からは15名が参加しました。

会場となった本学インフォメーションセンター「エルムの森」内のカフェdeごはんにて、冒頭、寶金総長から本学における直近の取組の紹介を含めた挨拶があり、和やかな雰囲気での懇談が始まりました。参加者は構内で採れた野菜を使用した料理などを楽しみながら、活発な意見交換が行われました。

懇談会の最後には、高橋理事から今後も報道機関との連携を深めていく

いとの挨拶があり、懇談会は盛会のうちに終了しました。参加した記者からは、北大の役員や広報関係者、他社の記者とも多くの話をする事ができ、参加して良かった、との意見が寄せられました。

（社会共創部広報課）



記者と懇談する寶金総長



記者と懇談する高橋理事



談笑する参加者



記者懇談会の様子



# 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をするとしています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

|                       |           |         |                |
|-----------------------|-----------|---------|----------------|
| 北大フロンティア基金創設時累計       | (7月31日現在) | 49,691件 | 7,279,644,580円 |
| うち、北海道大学創基150周年記念募金累計 | (7月31日現在) | 12,643件 | 1,114,876,023円 |

## ご寄附状況

7月は347件55,670,897円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます。  
(五十音別・敬称略)

## 寄附者ご芳名（法人等）

旭運輸株式会社、アトリエテッラ株式会社、石上車輛株式会社、岩田地崎建設株式会社、株式会社キットアライブ、釧路赤十字病院、医療法人社団釧路ひがし耳鼻咽喉科、株式会社熊谷組、株式会社 秀岳荘、石油資源開発株式会社、株式会社大歩、医療法人社団たかだ小児クリニック、医療法人社団武田隼会たけだ皮膚科スキンケアクリニック、医療法人社団クラーク会 鶴川皮膚科クリニック、TDK株式会社、株式会社帝国データバンク、国家公務員共済組合連合会 斗南病院、株式会社中村プロモーション、日本製鉄株式会社、日本中央競馬会、医療法人社団深仁会 ふかざわ病院、北海道ガス株式会社、北海道大学工学部同窓会、医療法人社団ポブラ小児科医院、丸辰商事株式会社、医療法人社団みやざき外科・ヘルニアクリニック、医療法人若林浜田クリニック

## 寄附者ご芳名（個人）

|       |       |       |       |       |       |        |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 合川 正幸 | 青井 良平 | 青木 俊介 | 青木 宏之 | 青山 剛  | 赤平 幸郎 | 朝比奈紀久雄 | 阿部 雅史 |
| 石井 哲夫 | 石垣 隆弘 | 石川 達也 | 井関 憲一 | 磯部 宏  | 市坂 有基 | 伊藤 圭   | 伊藤 大貴 |
| 伊藤 史子 | 伊藤 雄三 | 井上 聡  | 井上 将希 | 猪股 路子 | 井原 博  | 今井 晋   | 入澤 秀次 |
| 上田 雅敏 | 内山真一郎 | 宇原 久  | 梅村恵美子 | 梅本 由佳 | 枝澤 寛  | 縁記 和也  | 遠藤 公憲 |
| 大久保秀樹 | 太田 広三 | 大原 正範 | 大村 孝志 | 大森 和広 | 岡田 英子 | 岡本 佳裕  | 小川 瑞香 |
| 沖崎 遼  | 小倉 信子 | 小田原一史 | 小原 大和 | 加賀 幸彦 | 片岡 博行 | 勝原 昌幸  | 加藤 伸康 |
| 加藤 裕貴 | 金川 眞行 | 辛島由美子 | 苅和 宏明 | 川崎 正和 | 川村 信明 | 河本 充司  | 菊田 圭彦 |
| 菊地 順子 | 菊池 俊彦 | 岸 邦宏  | 岸浪 建史 | 衣川 暢子 | 行部 洋  | 久保 洋   | 栗原 誠治 |
| 黒田 努  | 上月 浩  | 小関 理穂 | 小長井奎幸 | 小林 賢人 | 小山 繭子 | 今 憲昭   | 今野武津子 |
| 齊藤 慈円 | 齊藤 晋  | 齋藤 久  | 齋藤文志郎 | 酒井 道  | 坂本 大介 | 崎元 大志  | 佐古 和廣 |
| 佐々木 了 | 佐藤 正知 | 佐藤 森寿 | 里 眞理子 | 佐藤 晶子 | 晒谷 健史 | 三升畑元基  | 敷浪 敏明 |
| 志済 聡子 | 柴崎 建二 | 渋谷 正人 | 清水麻里奈 | 霜鳥 秋則 | 新宮 康栄 | 菅原 新也  | 杉江 和男 |
| 杉本 聡  | 鈴木 一司 | 鈴木 貴之 | 鈴木 秀久 | 須藤 進  | 住田 啓  | 関根 君恵  | 瀬戸口 剛 |
| 瀬名波栄潤 | 妹尾 直  | 相馬 満  | 高瀬登志彦 | 高橋 均  | 高柳 涼  | 高山 秋光  | 滝沢 昌彦 |
| 田栗 和奈 | 武井 邦生 | 竹内 学  | 田中 稲藏 | 千葉 裕美 | 土屋 一洋 | 土家 琢磨  | 寺澤 睦  |
| 戸城 博行 | 豊田 威信 | 中丸 裕爾 | 西浦 迪子 | 西尾 泰彦 | 庭野 陽樹 | 沼田 祐司  | 根本 叔治 |

|       |       |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 野垣 文昭 | 野田 千春 | 畠山 昌則 | 畑中 一映 | 花田 秀一 | 林 重成  | 林寺 正俊 | 原 啓介  |
| 樋口 秀樹 | 平岩 紀子 | 平野 正幸 | 平山 光久 | 廣重 勝彦 | 福永 悟郎 | 藤澤 裕子 | 藤田 光江 |
| 藤田 芳康 | 古川 洋志 | 古川夕里香 | 古山 香里 | 保科 大地 | 堀田 彰一 | 本田 直之 | 牧田 道夫 |
| 松井 耕二 | 松崎 亮  | 松田 一郎 | 松田 訓弘 | 松原 謙一 | 松村 正人 | 松本 修一 | 真部 淳  |
| 三上 洋  | 三木 證永 | 三谷 真理 | 南田 大朗 | 美作宗太郎 | 宮田 信幸 | 宮武 司  | 宮永 禮子 |
| 宮本 憲幸 | 三輪 巖  | 村上 広輝 | 村瀬徳啓充 | 村瀬 亮太 | 村山 陽  | 森 直樹  | 森岡 圭太 |
| 矢久保考介 | 山川 佳久 | 山崎 健二 | 山崎 信男 | 山田 豊  | 山本 文彦 | 湯浅 資之 | 横山 考  |
| 横山 正樹 | 吉木 敬  | 吉木 咲枝 | 吉田 広志 | 米川 幸秀 | 若狭 哲  | 渡部 克将 |       |

## <寄附者への特典>

### 創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年度9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください <https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/>）

## <感謝状の贈呈>



アジア航測株式会社様（令和6年7月4日）

### ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。  
<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff>

#### ①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

#### ②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

#### ③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

#### ④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

（社会共創部広報課）

# 創成研究機構化学反応創成研究拠点とListプラットフォームが第2回シンポジウムを開催

創成研究機構化学反応創成研究拠点（以下、ICReDD）は8月29日（木）にICReDD棟にて「ListサステナブルDX触媒連携研究プラットフォーム（Listプラットフォーム）」と共催で第2回Listプラットフォームシンポジウムを開催しました。

Listプラットフォームは、ICReDDのベンジャミン・リスト特任教授・ユニバーシティプロフェッサーを中心とし、令和5年4月より始動した共同研究プロジェクトです。計算科学やロボット・機械学習・人工知能などのDX技術との融合により、環境負荷やSDGsに配慮した次世代有機触媒（サステナブルDX触媒）の開発を飛躍的に進展させるとともに、その関連分野を連携研究として拡張・加速させることで、次世代有機触媒開発における世界的研究拠

点としての地位確立を目指します。

シンポジウムはリスト特任教授による開会の挨拶に始まり、ICReDD教員4名及び招待講演者2名による講演が行われました。また、ポスターセッションでは22名の若手研究者が発表を行い、活発な意見交換により会場は大きな賑わいを見せていました。

当日は台風の影響により来札が叶わなくなった参加者のため、急きょオンライン配信と合わせてのハイブリッド開催となりました。参加者はオンライン含め78名となり、シンポジウムは盛会のうちに終了となりました。次回、第3回シンポジウムはリスト特任教授の原籍研究機関であるドイツのマックス・プランク石炭研究所を訪問しての開催となる予定です。

ICReDD及びListプラットフォーム

では今後もこのようなシンポジウムや講演会などの開催を通じて、ICReDDにおける研究を世界へ発信するとともに、様々な分野の研究者との融合研究を展開し、次世代を見据えた世界的研究拠点としての地位確立を目指していきます。

Listプラットフォーム 第2回シンポジウム講演者一覧（発表順）：

ジン・ミング准教授（ICReDD）、清水洋平准教授（理学院／ICReDD）、原田慎吾講師（千葉大学）、高橋啓介教授（理学院／ICReDD）、ベンジャミン・リスト特任教授（ICReDD）、山本 尚特定教授（中部大学）、座長：辻 信弥特任准教授（ICReDD）

（創成研究機構化学反応創成研究拠点）



ポスターセッションの様子



講演者と参画教員



# 大学院共通授業科目「ビジネス基礎Ⅱ」にて企業連携講義を実施

7月31日（水）に産学・地域協働推進機構と工学院の連携のもとで、大学院共通授業科目「ビジネス基礎Ⅱ」において、企業連携講義を実施しました。この講義では、株式会社三ツ星レストランシステムの谷川貴秀常務取締役と、合同会社Kプロジェクトの三好清佳代表をお招きし、飲食業界における実践的なビジネス戦略についてお話いただきました。

谷川常務取締役からは、回転寿司店「なごやか亭」や焼肉店「ほくぜん・牧歌園」など、三ツ星レストランシステムが展開する飲食事業の運営について、詳しい説明がありました。地域に根ざした経営戦略や、顧客満足度を高めるための取り組みなど、具体例を交えたお話は受講者にとって大変参考と

なる内容でした。続いて、40万人のフォロワーを抱えるインフルエンサーでもある三好代表からは、飲食店が今どのようなプロモーションを行っているか、また現代のマーケティングにおいて重要な視点は何かということについて解説があり、SNSを活用したプロモーション戦略や、デジタルマーケティングについて、実際の動画や画像を交えながら、その効果と実績について詳しくご説明いただきました。

講義の後半では、受講者はこれまでに学んできたSTP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）、4P（製品、価格、場所、プロモーションの内的整合性/外的整合性）、SWOT分析、市場地位別戦略、市場への創造的適応などのマーケティング理

論を用いて、焼肉店「ほくぜん」の強みや弱みを分析し、新たなプロモーション戦略を考案しました。グループごとに発表を行い、それぞれのアイデアを共有する場となりました。

最後に、谷川常務取締役と三好代表から、受講者の発表に対してフィードバックをいただき、両名の実務経験に基づくアドバイスは、学生にとって貴重な学びとなり、社会との連携が強く感じられる実践的な講義となりました。

産学・地域協働推進機構では、今後もこのような実際のビジネス現場との接点を持ちながら、学生が学ぶ機会を提供していきます。

（産学・地域協働推進機構）

## 実施内容

日 程：7月31日（水）  
 対 象：大学院共通授業科目「ビジネス基礎Ⅱ」受講者  
 協 力：株式会社三ツ星レストランシステム、合同会社Kプロジェクト



谷川常務取締役による講義



三好代表による講義



グループワークに取り組む様子

# チュラロンコン大学・香港大学・北海道大学が共同で ジョイントサマーキャンプ2024を開催

7月14日（日）～8月4日（日）の日程で、香港（香港大学）、タイ（チュラロンコン大学）、日本（北海道大学）の各地域・大学を参加者が1週間ずつ巡り、サステナビリティ分野における実践的な学習体験を行うジョイントサマーキャンプを開催しました。

本サマーキャンプは、広報、参加費用の設定・徴収、出願審査等の各重要プロセスを3大学本部がイコールパートナーとなり、密に情報共有しながら実施・運営を行う、他の国立大学では例を見ないFee-basedプログラムとして、昨年度より実施されています。昨年度の参加者アンケートをもとに各大学の訪問順を変更する等、今年度は3大学の連携面及び内容面をさらに磨き上げた形での実施となりました。

参加者は全世界から募り、昨年の2倍となる24名の学生が参加しました。日本チームでは、異なる学部・学院の本

学学生も参加し、One Healthをテーマに、獣医学研究院の石塚真由美教授開講のHokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）科目にて講義・演習の機会を得るとともに、札幌市円山動物園の協力を得て、オランウータン館のバックヤードや動物病院見学等のフィールド実習も実施し、様々なアクターが連携して生態系の保全に取り組む重要性に対する理解を深めました。また、高等教育推進機構の肖 蘭講師を中心に、日本や本学を知ってもらうための日本文化体験やキャンパスツアー等の交流型活動も企画されました。

日本チームオープニングセレモニーでは、山本文彦理事・副学長の挨拶から始まり、最終日のクロージングセレモニーには、チュラロンコン大学よりラム ピヤケット国際グローバルネットワーク部長（オンライン参加）、本学からは高橋 彩理事・副学長が出席

し、参加学生には獣医学研究院の滝口満喜研究院長より参加証が授与されました。参加者からの修了時アンケートでは、「短期間で実に多くのことを体験でき、様々な人々や分野から学び、経験することができた」「北海道の気候は、心地よい日差しとそよ風があり、人々にリラックスした幸せな気分を与えてくれる。北海道大学の緑豊かな環境と学術的な雰囲気は特に良いです！」等、多くのポジティブな回答を得て、盛況のうちに終えることができました。

今後、国際連携推進本部・高等教育推進機構では、本学及び本学学生の国際化を促すための取り組みを行っていく予定です。

（国際連携推進本部、高等教育推進機構）



クロージングセレモニー後の集合写真



講義の様子



和紙作り体験



茶道体験

# THEインパクトランキング5年連続国内1位を称える楯を拝受

6月12日（水）、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education（THE：ティー・エイチ・イー）」から、「THEインパクトランキング2024」の総合ランキング及びSDG別ランキングが発表されました。本ランキングは、各大学のSDGsに対する取組等をもとに、国連のSDGsの枠組みを使って大学の「社会貢献度」をランク付けするもので、今年で6回目となります。

本ランキングには125の国と地域から2,152の高等教育機関（国内からは88

大学）が参加しました。本学は、総合ランキングで対象となった世界1,963大学中72位となり、5年連続で国内1位を獲得しました。

SDG別ランキングにおいては、17のSDG目標のうち、「SDG2 飢餓をゼロに」（世界89位）、「SDG9 産業と技術革新の基盤をつくろう」（同49位）、「SDG14 海の豊かさを守ろう」（同57位）、「SDG15 陸の豊かさを守ろう」（同51位）、「SDG17 パートナーシップで目標を達成しよう」（同52位）が

世界100位以内にランクインしました。

この度、THEから、本学が2020年から5年連続で国内1位を獲得したことを称える楯が授与されました。

なお、昨年授与された4年連続で国内1位を獲得したことを称える楯は、総合博物館で展示を行っており、今回授与された楯も同様に総合博物館で展示を行う予定です。

（サステナビリティ推進機構、  
統合URA本部）



楯を持つ横田 篤理事・副学長を中心に記念撮影をする関係者



本学が5年連続で国内1位を獲得したことを称える楯



THEインパクトランキング2024で世界72位（国内1位）



# 「北海道大学サステイナビリティ宣言」を策定

本学は、SDGs達成の推進に当たっては、学生や教職員等、構成員一人ひとりが意識を持ち、取り組んでいくことが重要と考え、令和6年8月1日付けで「北海道大学サステイナビリティ宣言」を策定しました。

本宣言の前半では、札幌農学校を起源とする本学発展の歴史に触れ、広大な研究林等のフィールドや緑豊かなキャンパスを整備・保有することで、フィールド科学や環境科学等に強みを持つに至ったこと等を述べています。後半では、学生や教職員、経営層も含め

た全構成員に対して、SDGsを含むサステイナビリティを共通言語とした学内エンゲージメント（一体感）の醸成を図り、大学の総合力を向上させ、構成員が重んじるべき倫理観を養い、それらによって世界の課題解決に一層貢献できる大学を目指すことを示しています。また、このことを通じて、本学がコミュニティの中核となり、学外エンゲージメント（共感）を醸成することによって、その社会的インパクトを一層高める大学になるとの決意を示しています。

さらに、本宣言の実現を通じて「本学が目指す4つの姿」も表明しました。共通目的に向かって構成員が一体となって歩みを進めることで、本学が見据えるサステイナブルな未来を実現していきます。

## 北海道大学サステイナビリティ宣言

[https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2024/08/Hokkaido-University-Sustainability-Declaration\\_jp.pdf](https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2024/08/Hokkaido-University-Sustainability-Declaration_jp.pdf)

（サステイナビリティ推進機構）

### 北海道大学サステイナビリティ宣言

北海道大学は創設150年を迎える2026年に向けて、中長期戦略「北海道大学創設150年に向けた近未来戦略」を2014年に策定し、「世界の課題解決に貢献する北海道大学」を目指して歩みを進めている。持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）は、その翌年に国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に示された、2016年から2030年末までの17の国際目標である。これは世界の繁栄が熟考を重ねた人類の持続可能な成長のために解決すべき課題であり、「誰一人取り残されない」「平和・人権・ウェルビーイング（Well-being）」「経済・社会・環境の調和」などを基本理念としている。

本学はこうした中で、2020年12月に総長方針「比類なき大学を目指す」を公表した。2021年3月には、2030アジェンダに向けた「Joint Statement of Global University Leaders」として共同声明を出している。2024年8月には全学組織のサステイナビリティ推進機構を新設し、サステイナビリティの推進体制を整えた。さらに第4期中期目標期間（2022～27年度）の大学独自の中期目標として「SDGs達成への貢献」を掲げた。2021年12月には「ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」を行い、多様性を尊重し共生を実践する決意を表明した。同月に策定した「2040年に向けた北海道大学の国際戦略」でも、「サステイナビリティの追求」を戦略目標の一つとしている。2023年7月に策定した「HUI VISION 2030」でも持続可能なWell-being社会の実現を目指すこととしている。

本学は1876年に、北海道開発のための寒地における農業技術の開発と人材育成を趣旨として設置された札幌農学校を起源とするのが「国最初の高等教育機関のひとつである。初代教頭ウィリアム・S. クラーク博士は、“lofty ambition”（高邁なる大志）に代表されるクラーク精神や、専門教育に偏らない人格教育を含むカリキュラムを導入し、本学の礎を築いた。札幌農学校一周年の佐藤昌介博士は、1930年まで約40年間に渡り校長、学長、総長を務め、米国各州に設置された農工科大学の経営手法に倣った運営により、教育・研究の必要上及び基本財産として広大な国有地を附属農場や演習林として整備し、本学が理系4学部を擁する帝国大学になる礎を築いた。現在本学は、国立大学法人の中ではそれぞれ最多とな

る12学部と21の大学院を擁する基幹総合研究大学となっているが、本学が広大な緑豊かな札幌キャンパスや世界最大級の規模を誇る研究林を保有するのはこのためである。他方、私たちは、現在のキャンパスやフィールドが先住民アイヌの生活の場として位置している歴史を認識し、環境における持続可能性だけでなく、文化的多様性の回復と持続可能性についても追求していく必要がある。

本学はこうした発展の経緯や北海道の自然環境を基盤として、とりわけ農学・林学・水産学などのフィールドサイエンスや環境科学などに強みを持つに至り、食料生産、生物多様性、環境保全、気候変動といったSDGsを含むサステイナビリティ（以下「サステイナビリティ等」という。）の中核をなす分野で世界を牽引する優れた教育・研究を活動に行っている。こうした教育・研究・社会連携の営みが、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」という本学の教育研究に関わる4つの基本理念に結実している。

以上の歴史的認識に立脚し、学生、教職員、経営層も含めた全ての構成員に対してサステイナビリティ等に関する教育プログラム、学内研修及び自己研鑽支援制度をはじめとした個々の能力向上のためのあらゆる機会を創出することで、各自の活動がサステイナビリティに繋がるという認識を促し、各自が持続と尊厳をもって活動することを通じて、自らの可能性へ挑戦するなど個々の能力を最大限に発揮することができる環境を整える。このことにより、サステイナビリティ等を共通言語とした学内エンゲージメント（一体感）の醸成を図り、大学としての総合力を向上させ、世界の課題解決に一層貢献できる北海道大学を目指す。あわせて、サステイナビリティ等の実現に当たって構成員が重んじるべき誠実さと公平性などの倫理観を育んでいく。また、このことを通じて、本学がコミュニティの中核となり、学外エンゲージメント（共感）を醸成することによってその社会的インパクトを一層高める大学になるとの決意し、ここに「北海道大学サステイナビリティ宣言」を表明する。

2024年8月1日

国立大学法人北海道大学総長

寶金清博

### 北海道大学サステイナビリティ宣言

### 北海道大学がサステイナビリティ宣言の実現を通じて目指す姿

北海道大学サステイナビリティ宣言では、世界の課題解決に貢献する北海道大学として、全ての構成員に対してサステイナビリティ等に関する教育プログラム、学内研修及び自己研鑽支援制度をはじめとした個々の能力向上のためのあらゆる機会を創出することで、各自の活動がサステイナビリティ等に繋がるという認識を促し、各自が持続と尊厳をもって活動することを通じて、自らの可能性へ挑戦するなど個々の能力を最大限に発揮することができる環境を整える。このことにより、サステイナビリティ等を共通言語とした学内エンゲージメント（一体感）の醸成を図り、大学と

しての総合力を向上させ、あわせて、サステイナビリティ等の実現を通じて各自が倫理観を養い、世界の課題解決に一層貢献できる北海道大学を目指す。こうした活動の変化は、対外的にも本学の社会における存在意義を高め、学外エンゲージメント（共感）が醸成され、その結果として本学は社会的インパクトを一層高め、「持続可能なWell-being社会」を実現する社会変革を先導していく。

また、本宣言の実現を通じて、本学は以下のような姿を目指す。

- ウィリアム・S. クラーク博士の“lofty ambition”（高邁なる大志）の精神を背景に持つ大学として、活気に満ち、健康的で、信頼され、さまざまなステークホルダーと深く関わり互いに尊重し合い、すべての構成員が一体感をもって課題に立ち向かい、学際性、リーダーシップを育み強化し、多様で包括的なサステイナビリティのキャンパス文化を創造する大学
- 本学が活動する多くの土地が、元々先住民（アイヌ）のガヤが日々の暮らしに利用していた場所であり、先住民の歴史を背景に持つ環境の中で教育・研究活動を行っているという共通認識を持ち、文化的多様性の回復を追求し続ける大学
- 基本理念の中に「全人教育」「国際性の涵養」を標榜する大学として、サステイナビリティに関する世界的ネットワークをリードし、サステイナビリティに関する学問を発展させ、地域でサステイナビリティの実践を成功させ、サステイナビリティの知識とスキルを身につけた学生を育成し、持続可能な社会の実現を推進する次世代人材を社会に輩出し続ける大学
- 基本理念の中に「実学の重視」を標榜する大学として、国の掲げる温室効果ガス削減目標を達成するとともに、必要な財源確保に努めつつ、本消費の削減、廃棄物や食品ロス削減、プラスチック使用量の削減、環境負荷の少ない通勤・通学方法の選択、構内交通体系の最適化など、キャンパスライフの環境負荷を最小化するための取組や構成員の行動変容を通じ、気候変動対応や生物多様性保全等の持続可能な社会の実現に向けて、公正かつ公平な移行を加速化する大学

以上

### 本学が目指す4つの姿

# 北海道マラソン2024と連携しSDGs農園プロジェクトを実施

サステナビリティ推進機構SDGs事業推進部門と北海道マラソン2024組織委員会は、「きたみてガーデンSDGs農園（以下、SDGs農園）」プロジェクトを実施しました。本プロジェクトは、札幌キャンパスで回収された落葉からできた腐葉土の利活用を通して、キャンパス内の資源循環の在り方について、本学の学生・教職員だけでなく地域社会とともに考えるものです。

総合博物館の中庭に設置したSDGs農園は、本学の学生・教職員及び北海

道マラソン事務局を主体とした総合博物館のボランティアグループ「きたみてガーデン」が造成及び管理を行うほか、食育の機会提供の場として保育園児が栽培体験を行っています。

また、SDGs農園で収穫された野菜は、北海道マラソン2024に参加するランナーの交流会「カーボローディングパーティー\*」の食材として使用されたほか、総合博物館の「ミュージアムカフェばらす」の特別メニューでも使用されました。

## 【プロジェクトの構成組織】

企画：サステナビリティ推進機構、北海道マラソン事務局  
協力：きたみてガーデン、ミュージアムカフェばらす、総合博物館、施設部、北方生物圏フィールド科学センター（FSC）札幌研究林・生物生産研究農場

## \*カーボローディングパーティー

北海道マラソンの大会前日に行う、炭水化物のチャージとランナーの交流を目的としたイベント。8月24日（土）に昼と夕方の2部制で開催され、各80名が参加。

（サステナビリティ推進機構）



総合博物館の中庭のSDGsガーデン



ガーデンの整備指導を行う林 忠一FSC連携URA（右）、作業する西村孔佑施設部施設企画課係長（中央）



カーボローディングパーティでは取組紹介のパネルを掲示



SDGs農園で収穫された野菜はサラダなどに使用

# 総合博物館令和6年度夏季企画展「北大の探求心2024」で 本学のSDGs活動を紹介

サステナビリティ推進機構SDGs事業推進部門は、総合博物館が主催する令和6年度夏季企画展「北大の探求心2024」（第1期展示期間：7月5日（金）から8月12日（月）まで）に出展し、本学のSDGs活動を広く来場者に知ってもらうための企画展示を行いました。

展示では、令和5年に策定したHUVISION 2030のレリーフ版を作成し、ExcellenceとExtensionの両軸を高めた先に「持続可能なWell-being社会の実現」があることを示しました。また、本学は広大で多様なキャンパス・フィールドを有し、中でも研究林は約70,000haで東京23区とほぼ同じ面積で

あることや、雨龍研究林と札幌キャンパスが、環境省の「自然共生サイト」に認定され、生物多様性の保全が図られている区域とされていることを説明しました。さらに、「世界の課題解決に貢献する北海道大学」として、THEインパクトランキングで5年連続国内1位となっていることや、CDP気候変動質問書\*に回答し「B評価」を得ていることなどを伝えました。

札幌キャンパスの大型地図パネルを用意し、好きな場所にシールを貼ってもらったり、コメントを付箋紙に書いて貼ってもらうインタラクティブ展示では、海外の方や子どもたちも数多く

ご参加いただき、札幌キャンパスの自然豊かな要素やモデルバーンなどの文化財に多くのシールが貼られました。

\*CDP気候変動質問書：イギリスの国際環境NGOであるCDP（カーボンディスクロージャープロジェクト）が、グローバルな環境課題の改善を目的に、企業の環境対策レベルをスコアリングするもの。本学は国内の大学として初めて、令和4年から本質問書に回答し、札幌・函館キャンパスにおける温室効果ガス排出量を報告した。

（サステナビリティ推進機構）



内覧会で展示説明を行う出村 誠総長特命参与



札幌キャンパスの好きな場所にシールを貼りコメントができるインタラクティブ展示



# HSI科目「国際SDGs入門」を開講

サステナビリティ推進機構SDGs事業推進部門は、Hokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）において、学生及び外国人を主な対象とした科目「国際SDGs入門」を、8月6日（火）から9日（金）まで4日間の日程で開講し、本学学生21名、その他受講生（外国人）42名、合計63名が対面・オンラインで受講しました。

本科目では、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である「持続可能な開発目標

（SDGs：Sustainable Development Goals）」について取り上げました。講義では、サステナビリティの潮流、ESG投資、17ある各SDGゴールの解説とともに、OGGs\*の3つのコース（NJE3・PARE・STSI）を担当する教員から、それぞれの最先端の研究領域について講義が行われました。

また、ゲスト講師として、国際熱帯木材機関（ITTO）特別アドバイザーの三次啓都氏と独立行政法人国際協力機構（JICA）キルギス事務所・安藤岳洋氏（オンライン）を招きました。三次講師からは、地球上の森林の現状と食料問題がリンクしていることなど

が解説され、安藤講師からは、開発途上国から移行国となっているキルギスにおける日本の技術協力・資金協力の現状についての解説がなされました。

なお本講義は、本学においてSDGsを発展的に学ぶことのできる講義として、英語で実施しました。

\*OGGs（One program for Global Goals）持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成を目指して2022年4月に創設された大学院生を対象とする国際共修プログラム。

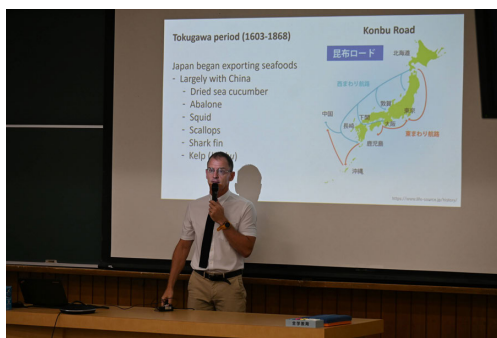
（サステナビリティ推進機構）



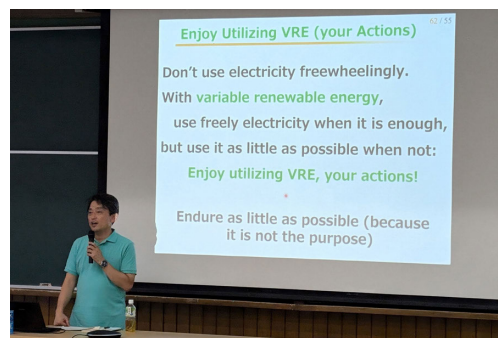
受講生の質問に対応する三次講師



キルギスからオンライン講義する安藤講師



講義を行うジョン・パワー准教授  
（水産科学研究院、PARE担当）



講義を行う田部 豊教授（工学研究院、STSI担当）

# ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」で「無料で健康チェック！」を実施

本学ほか4者で進めるウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」では、8月18日（日）に「無料で健康チェック！」を実施しました。

「脳年齢測定」「骨健康度測定」及び推定野菜摂取量が測定できる「ベジチェック」などの健康チェックのほか、測定結果と栄養相談ができるブースや、サントリーフーズ株式会社の協

力のもと特定保健用食品飲料の試飲コーナーを設けました。さらに、キューピー株式会社の協力のもと、野菜不足解消のためにAI診断で自分好みのドレッシングを提案してくれる「myドレッシング診断」を実施し、実際にドレッシングの試食も行われました。

当日は、過去最多の約270人が参加しました。今回を含め2023年5月の本

プロジェクト開始以来、約1,300の方々に健康チェックの機会を提供しています。次回は10月20日（日）に開催予定です。

（サステナビリティ推進機構、保健科学研究院）

名 称：無料で健康チェック！

日 程：2024年8月18日（日）10：00～16：00

場 所：スーパーアークス北24条店1F及び2F（札幌市北区北24条西9丁目1-1）

主 催：北海道大学、株式会社アークス、株式会社ラルズ、株式会社ツルハ、札幌市

協 力：サントリーフーズ株式会社、キューピー株式会社

対 象：一般市民

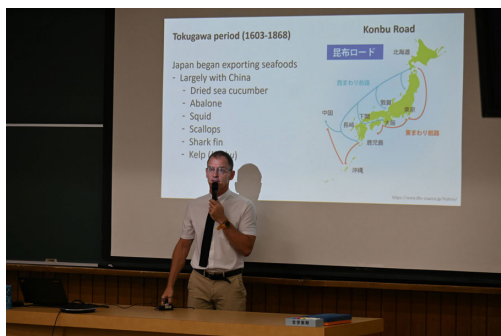
参加費：無料



「脳年齢測定」の様子



「my ドレッシング診断」の様子



「栄養相談」の様子



「無料で健康チェック！」の様子

# 「環境広場さっぽろ2024」で 本学のサステナビリティに関する取り組みを紹介

サステナビリティ推進機構SDGs事業推進部門は、8月24日（土）・25日（日）に大和ハウスプレミストーム（旧札幌ドーム）で開催された「環境広場さっぽろ2024」において、本学のサステナビリティに関する取り組みを紹介するステージ発表及びブース展示を行いました。

「環境広場さっぽろ」とは、次世代を担う子どもたちが、楽しみながら環境・SDGsについて学ぶことを目的に札幌市が主催する、北海道内最大級の環境イベントです。

ステージ発表では、「あつまれ！未来のSDGs博士！」と題して、本学発

認定スタートアップ企業「合同会社エゾリンク」の風張喜子氏、クォン テオ氏による司会進行のもと、観客参加型のクイズを行いました。クイズを通して、本学がTHEインパクトランキングで高い評価を得ていること、広大なフィールドを有しており、フィールドを活かした研究を行っていること等を紹介したほか、出村 誠総長特命参与から、本年8月1日付けで策定した「北海道大学サステナビリティ宣言」の紹介を行いました。

本学のブースでは、「HU VISION 2030」のレリーフ、「北海道大学サステナビリティ宣言」及び本学の広大

なフィールド、研究、オリジナルブランド等を紹介するパネルの展示を行いました。また4月に本機構キャンパスマネジメント部門が発行した「北海道大学札幌キャンパス生き物ガイド」をもとに作成した「札幌キャンパス植物クイズ」を行い、ブース来訪者に、札幌キャンパスが環境省から自然共生サイトの認定を受けていること、持続的な緑地の保全・管理を実施していること等を紹介しました。

（サステナビリティ推進機構）



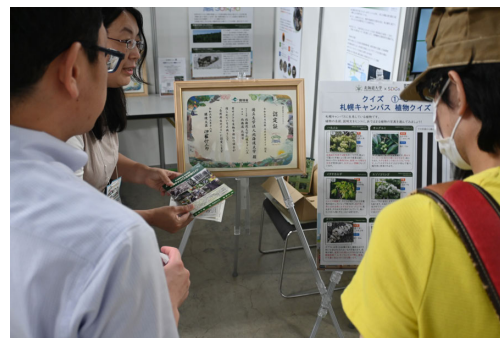
環境広場さっぽろ2024の開会式



北海道大学サステナビリティ宣言を紹介する様子



ステージで行ったクイズの様子  
（左から出村総長特命参与、風張氏、テオ氏）



「札幌キャンパス植物クイズ」に取り組む参加者の様子



# 大学院教育推進機構リカレント教育推進部が 2024年度前期北大道新アカデミーを開講

大学院教育推進機構リカレント教育推進部は、北海道新聞社との包括連携協定に基づいて、主に学外の社会人を対象とした教育プログラム「北大道新アカデミー」を運営しています。2024年度前期は、4月6日（土）から7月27日（土）にかけて、理系・文系の2コースそれぞれ8回、学術交流会館を会場にして、対面で開講しました。「北大道新アカデミー」は、本学が提供する、社会人の学び直しを意味するリカレント教育プログラムの一つに位置づけられています。

今回の文系コースは文学研究院の研究者が講義を行いました。テーマは「戦争と平和～人文社会科学の視点から考える～」です。紛争や戦争が地域の暮らしや思想、研究に与えた影響、そして平和を希求する人びとの営みについて学び、あるべき社会を構想することが目的です。

理系コースは、先端生命科学研究院が担当しました。「生物と物質の間～改めて『生命とは何か』を問う～」として、最先端の生命科学に携わる研究者の講義を通じて、私たちの根源的な

問いである「生命とは何か」に迫りました。

前期の北大道新アカデミーの講座受講者数は文系コース60名、理系コース94名でした。受講後のアンケートでは「なぜ植民地主義に陥るのか、そうならないためにはどうすればいいのかと考えさせられました」「今回の理系コースはとても勉強になりました。心も豊かになりました」といった感想が寄せられました。

（大学院教育推進機構）

2024年度北大道新アカデミー前期 講義タイトル・講師

| 日 程               | 講義タイトル・講師                                      |                                        |
|-------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------|
|                   | 文 系                                            | 理 系                                    |
| 【第1回】<br>4月6日（土）  | 学術研究と20世紀中国の「戦争」<br>吉開 将人 教授                   | 化学×生命 = 化学生物学、先端生命科学がめざすもの<br>門出 健次 教授 |
| 【第2回】<br>4月13日（土） | 南の島の紛争と人びと<br>宮内 泰介 教授                         | 細胞分裂から考える「生命とは何か」<br>石原 すみれ 助教         |
| 【第3回】<br>4月27日（土） | 堀田善衛と戦争<br>水溜 真由美 教授                           | 生命をささえる「タンパク質」分子の役割<br>相沢 智康 教授        |
| 【第4回】<br>5月25日（土） | 戦間期の亡命ロシア文化<br>小椋 彩 准教授                        | 進化を通して生命の本質をみる<br>山口 諒 助教              |
| 【第5回】<br>6月29日（土） | 社会運動から考える東アジアの衝突と連帯—香港・台湾・中国大陸を中心に<br>伍 嘉誠 准教授 | 柔らかい物質のナノ構造<br>李 响 准教授                 |
| 【第6回】<br>7月6日（土）  | 平和の人類学<br>小田 博志 教授                             | 共生する腸内細菌と私たちの健康<br>中村 公則 教授            |
| 【第7回】<br>7月20日（土） | 境界域における紛争と「平和」—アルザス史を題材に<br>安酸 香織 准教授          | 材料的視点での生体組織の機能<br>黒川 孝幸 教授             |
| 【第8回】<br>7月27日（土） | 計算機械と知能—戦時と平和時の知的探究<br>佐野 勝彦 教授                | 細胞が織りなす神秘の世界を「科学する」<br>芳賀 永 教授         |

## 第1回北大女性教授ネットワーキングの会を開催

8月2日（金）創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED）棟において、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部（DEI推進本部）とD-REDの共同で第1回北大女性教授ネットワーキングの会を開催しました。

本会は、女性教員、とりわけ女性教授間のネットワークを強化することを目的としたものです。女性リーダーとして、研究、教育、そして管理運営にどのように携わっていくことが必要か、その経験知を共有し、互いに学び合える機会を提供するとともに、多様な学問領域の研究者が集まり、異分野融合研究への発展にも繋がる場を提供することを目指しています。

会はDEI推進本部の矢野理香副本部長・保健科学研究院教授による開会の挨拶の後、第一部では、副学長・D-RED拠点長の情報科学研究院の長谷山美紀教授から「女性大学教員のキャリア形成～研究室運営から大学運営を経験して分かったこと」と題し、講演がありました。参加者は、長谷山教授がこれまでに歩んできた必ずしも平坦とは言えない、言わば苦難の連続を克服されてきた経験談に圧倒されながらも、質疑応答では、その“極意”を学び、参加者の多くが大いに勇気づけられました。また、第二部では、DEI推進本部女性研究者育成支援部門長の小川美香子薬学研究院教授が司会とな

り、長谷山教授を含む6名のパネリストにより「研究室運営（チーム運営）の課題と改善」と題したパネルディスカッションが行われ、活発な意見交換がなされました。今回の企画は、女性研究者のうち教授に限定した初めての試みでしたが、参加者にとって、部局や研究分野が異なる者同士が、垣根を越えて一堂に会する場で活発な意見交換を行ったことは、極めて貴重な機会となりました。

最後に集合写真を撮影し、次回開催を待ち望む声とともに閉会しました。

（ダイバーシティ・インクルージョン推進本部、創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点）



講演する長谷山教授



DEI推進本部女性研究者育成支援部門の教員らとのパネルディスカッションの様子

# 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 今年度は29名の研究者が参加

本学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業、"Academic Fantasia (アカデミックファンタジスタ)". 内閣府

が推進する「国民との科学・技術対話」事業の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。今年度は、29名の研究者

が参加します。

(広報・社会連携本部)



北海道大学創基150周年記念事業  
北海道の高校生と対話する  
**ACADEMIC FANTASISTA 2024**  
アカデミックファンタジスタ  
ACADEMIC FANTASISTAは、北海道大学の研究者が、知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生に伝える事業です。  
本事業は、北海道大学と北海道新聞社が連携して実施しています。出張講義のお申し込みは、高校単位となります。詳細は下記へお問い合わせください。  
北海道新聞社営業局 営業本部 Tel.011-210-6167(アカデミックファンタジスタ担当:上原・野島) 受付時間/9:30-17:30(土・日・祝日を除く) 企画制作/北海道新聞社営業局

8月27日(火)の北海道新聞朝刊に掲載された今年度のキックオフ広告



## 【順不同】

|                                  |                                                           |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 笠井 久会（水産科学研究院 教授）                | 「魚の感染症の診断、予防および治療」                                        |
| 柳澤 達也（理学研究院 教授）                  | 「超音波で『観る』固体中の電子」                                          |
| 石垣 侑祐（理学研究院 准教授）                 | 「有機化学の最前線～世界一／世界初の先に見えるもの～」                               |
| 小林 弘明（理学研究院 准教授）                 | 「ナノテクノロジーが拓く新しい電池」                                        |
| 永木愛一郎（理学研究院 教授）                  | 「『流れ』によって化学を変える」                                          |
| 吉田 紘行（理学研究院 教授）                  | 「対称性の破れた物質たち」                                             |
| 阿部 匡樹（教育学研究院 教授）                 | 「『私』の行為に潜む『他者』の影響」                                        |
| 駒川 智子（教育学研究院 教授）                 | 「ジェンダーの視点でみる労働の世界」                                        |
| 池田 敦子（保健科学研究院 教授）                | 「健康に暮らすための室内環境とは」                                         |
| 小笠原克彦（保健科学研究院 教授）                | 「医療・保健を変革するデータヘルス／医療情報」                                   |
| 菊地 竜也（工学研究院 教授）                  | 「材料の表面を変えれば、世界が変わる！」                                      |
| 小崎 完（工学研究院 教授）                   | 「放射線・放射能の科学」                                              |
| 松浦 妙子（工学研究院 教授）                  | 「陽子ビームを使ったがん治療」                                           |
| グエン タン マイ（工学研究院 助教）              | 「Synthesis of metal alloy nanoparticles and applications」 |
| 大場 雄介（医学研究院 教授）                  | 「細胞の環境応答システムを見てみよう！」                                      |
| 工藤 與亮（医学研究院 教授）                  | 「人工知能（AI）を使って未来の医療を作る」                                    |
| 玉腰 暁子（医学研究院 教授）                  | 「健康情報を読み解く」                                               |
| 今内 覚（獣医学研究院 教授）                  | 「新薬開発で動物も病気から救える時代に」                                      |
| 宮園 健吾（文学研究院 准教授）                 | 「心の哲学とAI」                                                 |
| 小浜 祥子（公共政策学連携研究部 准教授）            | 「実験で読み解く国際政治と人の心のかかわり」                                    |
| 渡邊 史郎（北海道大学病院 助教）                | 「放射線を利用した生体内イメージングと治療」                                    |
| 長山 雅晴（電子科学研究所 附属社会創造数学研究センター 教授） | 「漸化式を使って様々な現象を数式にしてみよう」                                   |
| 松野 啓太（人獣共通感染症国際共同研究所 准教授）        | 「新種のウイルスを見つける」                                            |
| 加藤 博文（アイヌ・先住民研究センター 教授）          | 「いま学ぶアイヌ民族の歴史：先住民研究から世界を見る」                               |
| 田村菜穂美（環境健康科学研究教育センター 特任講師）       | 「環境と健康のデータサイエンス」                                          |
| 原測 祐（創成研究機構 化学反応創成研究拠点 特任准教授）    | 「ロボットとコンピュータによる化学空間探索」                                    |
| 高田 健介（ワクチン研究開発拠点 特任准教授）          | 「ワクチンはなぜ効くのか？－病原体を記憶する免疫の仕組み－」                            |
| 川上 あき（高等教育推進機構 特任講師）             | 「大学・大学院での専門と就職とキャリアデザイン」                                  |
| 宮本 淳（大学院教育推進機構 教授）               | 「未来社会を考える－大学での学びと研究－」                                     |

本学の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」や、アカデミックファンタジスタの公式Facebookでも、講義レポート等を随時更新しています。ぜひご覧ください。

リサーチタイムズ <https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/>  
 Facebook <https://www.facebook.com/Hokkaido.univ.taiwa>  
 北大時報 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>



リサーチタイムズ



Facebook

## ■ 部局ニュース

### 韓国漢字研究所と教育学研究院の交流を実施

7月2日（火）から8月1日（木）の1か月間、教育学研究院では慶星（キョンソン）大学校韓国漢字研究所の崔 升銀（チェ・スンウン）教授を招へい研究者として受け入れました。本訪問は、韓国漢字研究所が採択されている、韓国教育部傘下の韓国研究財団主管の人文系研究インフラ構築事業「HK+（エイチケイプラス）事業」による出資研究「漢字と東アジア研究～漢字ロードの交流（疎通）、動因（動因）、導航（導航）」を受けたものです。韓国での人文学系研究が下火となっていることへの懸念から、平成19年から10年間設けられたHK事業の後継事業であり、平成29年から7年間の事業期間で韓国国内14の研究所を助成し、その成果に社会的波及効果（Social Impact）を求めています。

滞在中、崔教授は「日本近代学術用語の受容と生成に関する研究～教育学

論を中心に」という申請研究テーマに基づき、明治初期の知識人が如何に科学技術英語を漢字に訳していったのかを当時の教育雑誌や教材で探り、また、教育学部の学生に向けて特別講演を行いました。

崔教授からは、ハングルが全盛であるため、韓国語学会では肩身が狭いという漢字研究の状況、人文学系研究費の採択者に課せられる成果が「データベース構築」から「文理融合展開」及び「社会貢献」に変わってきていることなどの説明がありました。また学校教育で漢字を学ぶことが殆どない現在の20-30代の韓国人の状況を踏まえ、大人から子どものための教育提案として、研究所の隣に「漢字文明創意体験館」を建設し、漢字に触れることがない人たちもゲーム、アニメ、漢字研究所の所長をキャラクター化したYouTubeチャンネルでの配信や、お

絵描きイベント、及びスマートフォン用アプリケーションから親しみを増やすように働きかけているとお話がありました。さらに漢字研究所が第18回国際釜山コンテンツ市へ出展するに至ったこと、そして「世界漢字学図書館」を設立し、世界漢字学会の事務局を務めるほか、ジャーナルを2編纂し、いずれも韓国学術誌引用索引の掲載雑誌となったものの、国際通用性が尊ばれるためScopus（スコープス）掲載も目指さねばならないことなどのお話があり、韓国の漢字研究環境の現状が垣間見える機会となりました。

今後は、教育学研究院の近藤健一郎教授を中心に、研究・教育連携の可能性を模索していきます。

（教育学研究院、国際連携推進本部）



近藤教授と崔教授



教育学部の学生たちと

# 公共政策大学院が「2024年度HOPS地方議員・公務員向けサマースクール」を開催

公共政策大学院では社会連携の一環として、平成20年度以降、継続的に「HOPS地方議員・地方公務員向けサマースクール」を開催してきました。本サマースクールは、講演では各分野の第一線で活躍する道内外のゲストスピーカーを講師として招聘するとともに、グループディスカッションでは専任教員がファシリテーターとして参画することを特長としています。

本年度は、8月23日（金）・24日（土）に対面とオンラインの併用方式で「地域の存続に不可欠な地域包括ケア・地域共生社会の実現に向けた市町村の役割」をテーマとして開催しました。道外の14名を含む107名から受講申し込みがあり、内訳は、2日コースで道外の1名を含む34名、1日コースでは道外の13名を含む73名でした。

1日目は最初に、行松泰弘理事より開講挨拶がありました。その後、まず公共政策大学院の田中謙一教授（元三重県桑名市副市長）より、「困り事を

抱えても住み慣れた地域で暮らし続けるための支え合いのネットワークづくり～桑名市の事例を手掛かりに～」と題する講演及び質疑応答がありました。次に、大分県杵築市社会福祉協議会常務理事兼事務局長（元杵築市医療介護連携課長）の江藤 修氏より、「地域包括ケア・地域共生社会の実現に向けた市町村・社会福祉協議会の役割～杵築市の重層的支援体制整備事業を中心に～」と題する講演及び質疑応答がありました。さらに、北海道美瑛町の角和浩幸町長より、「地域包括ケア・地域共生社会の実現に向けた美瑛町の取組み～高齢者福祉計画や小規模多機能型居宅介護を中心に～」と題する講演及び質疑応答がありました。

2日目には、冒頭に、医療経済研究機構政策推進部の柳 史生次長（元山形市福祉推進部長寿支援課長）より、「市町村における地域包括ケア・地域共生社会の実現に向けた取組みの進め方～全国の事例を紹介しながら～」と

題する講演及び質疑応答がありました。それに引き続き、自らの市町村における地域包括ケア・地域共生社会の実現に向けた取組みの概況に関する各自のレポート及び、地域包括ケア・地域共生社会の実現に向けた市町村の役割について、5グループでそれぞれディスカッションを実施しました。その結果に基づき、どのような意見が交換されたか各グループが発表を実施し、これに対して講師及びファシリテーターが講評を実施しました。最後に、公共政策大学院の山崎幹根院長より、閉講挨拶がありました。

受講者においては、地域包括ケア・地域共生社会の実現に向けた市町村の役割について理解を深めるとともに、士気を高めたようです。自らの市町村における取組みに着実に結び付けることを期待しています。

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）



行松理事による開講挨拶



角和町長による講演



グループディスカッションの様子



2日コースの集合写真



## 歯学研究院で「若手研究者のための科研費申請書の書き方セミナー」を開催

歯学研究院では、統合URA本部の協力のもと、7月26日（金）に「若手研究者のための科研費申請書の書き方セミナー」を開催しました。

令和4年度から、歯学研究院と統合URA本部との共同企画として、公募型研究費の応募件数及び採択率の向上のためのセミナーを開催していますが、今回は歯学系教員等のFD講演会との共催として開催し、会場がほぼ埋まる程の参加者がありました。

まず、統合URA本部の佐藤 崇URAから、学内各部局における科学研究費申請の現状に関して説明があった後、

昨年度以降に他機関から本学に着任された佐藤美寿々助教（予防歯科学教室）、宮本郁也教授（口腔診断内科学教室）及び黒嶋伸一郎教授（冠橋義歯補綴学教室）から、他機関での科研費獲得についての経験を交えた様々な成功例について説明がありました。

発表者の各教員からは、他大学での科研費の獲得状況や、科研費獲得に向けた取り組みについて紹介があった他、実際に科研費を獲得した申請書を基に書き方のポイントを解説する等、科研費獲得の経験談を聴ける貴重な機会となりました。終了後のアンケート

でも「経験者による具体的な話が聞けて勉強になった」「科研費申請について他大学の取り組みなども知られて参考になり、モチベーションとなった」「改めて自分のやり方を見直す機会になった」など、今後の応募、採択状況の向上を期待させる意見が数多く寄せられました。

歯学研究院では、引き続き統合URA本部と緊密に連携し、研究支援の取り組みを強化していくこととしています。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



歯学研究院・北大URA共同企画  
FD委員会共催

**科研費**  
KAKENHI

### 若手研究者のための 科研費申請書の書き方セミナー

昨年実施したセミナーや競争的研究資金に関するアンケートの結果を踏まえ、以下の要領で若手研究者向けの科研費申請書の書き方セミナーを開催いたします。演者の先生方には、応募・採択に至るまでの貴重な経験談や、申請時に工夫した箇所や困った箇所、他大学での科研費申請への取り組みなどをご紹介します。当該事業にご興味をお持ちの方は、研究分野を問わず是非ご参加ください。

**開催日** : 2024年 7月 26日（金） 18:15より

**開催場所** : 歯学部 講堂

|                    |                                                              |
|--------------------|--------------------------------------------------------------|
| <b>18:15~18:20</b> | はじめに：佐藤 崇 統合URA本部                                            |
| <b>18:20~18:40</b> | 演者：佐藤 美寿々 先生（予防歯科学教室）<br>「読みやすい科研費申請書を目指して」                  |
| <b>18:40~19:00</b> | 演者：宮本 郁也 先生（口腔診断内科学教室）<br>「歯学部で科研費を獲得すること」                   |
| <b>19:00~19:20</b> | 演者：黒嶋 伸一郎 先生（冠橋義歯補綴学教室）<br>「長崎大学が生き残るために行っている<br>科研申請への取り組み」 |
| <b>19:20~19:30</b> | 総合質疑                                                         |

\* 実際の申請書などをご紹介します都合上、オンライン配信は行いません。

お問い合わせ: satotaka@den.hokudai.ac.jp （URA 佐藤）

セミナーのフライヤー

## 歯学研究院・歯学院・歯学部がランシット大学と部局間交流協定を締結

歯学研究院・歯学院・歯学部は、8月2日（金）にタイ王国のランシット大学と部局間交流協定に関する調印式を実施しました。

歯学研究院で開催された調印式には、ランシット大学からリア アドマイラル スチャダ ブドゥハカノック アール ティー エヌ歯学院院长ほか1名が、歯学研究院からは網塚憲生研究院長、

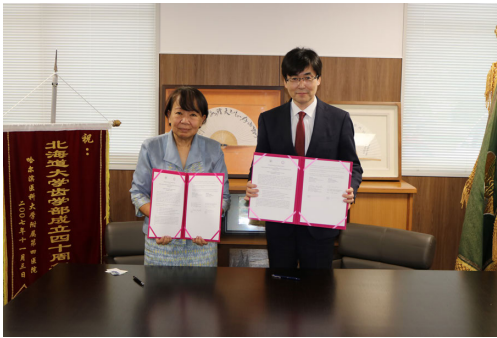
八若保孝教授、有馬太郎准教授の3名が出席しました。

ランシット大学は、11の医療系学群、13の人文系学群、5の理工系学群、4の芸術系学群、そして3の経営系学群からなる、私立の総合大学です。なかでも観光ホスピタリティ学部などホテルマンとしての教育を受けることができる学部やCA（キャビンアテンダン

ト）を養成する学部など大変ユニークで多分野に及ぶ学部が設置されており、学生たちに大変人気の大学です。

本協定により、国際共同研究の実施や教育研究における交流連携が一層推進されることが期待されます。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



協定書を持つランシット大学のブドゥハカノック歯学院院长（左）と網塚研究院長（右）



調印式での集合写真

## 薬学研究院が「第19回薬学研究院研究発表会」を開催

薬学研究院では、8月9日（金）に「第19回薬学研究院研究発表会」を開催しました。本発表会は、教員のプレゼンテーション能力向上及び、他分野の研究に関する理解を深めることによる共同研究の活性化を目的として、平成24年度に始まり、FD研修会を兼ねて、年2回実施しています。

発表会は、木原章雄薬学研究院長による開会の挨拶の後、天然物化学研究室の松田研一講師（現准教授）による「天然物生合成酵素の開拓と触媒利用」と題する研究発表が行われました。

本発表会には、教員37名が参加し、様々な分野の教員から発表者への質問があり、活発な討論が交わされました。

教員の異分野への知見の拡大やプレゼンテーション能力の向上に、また共同研究の活性化に繋がる非常に良い機会であり、大変有意義な会となりました。

次回は令和7年3月に開催予定です。

（薬学研究院・薬学部）



発表する松田講師



# 農学部・農学院とシンガポール国立大学間で「Joint Summer Programme in Japan and Singapore」を開催

農学部・農学院ではシンガポール国立大学（以下、NUS）との「Joint Summer Programme in Japan and Singapore」を開催しました。本プログラムは2018年度から始まったもので、海外ラーニング・サテライト事業にも採択されています。

本プログラムは、札幌とシンガポールでそれぞれ約1週間の現地プログラムを行います。6月10日（月）から14日（金）は農学部・農学院が主催し、8月5日（月）から9日（金）はシンガポールに場所を移し、NUSが主催しました。今年度は農学部の学生とNUS理学部の学生それぞれ10名が参加しました。

本プログラムは、農業を地域で育まれた文化・産業と考え、文化的背景が異なる国の学生達がそれぞれの国の食料生産、加工や流通技術等の学びを通じて交流し、農業や食への理解を相互に深め、グローバル化時代における農業のあり方を考える内容となっています。

6月の札幌プログラムでは、北海道の農業史について概論を受講した後、実験用水田で田植え実習を行いました。自国に農業用水田がないNUSの学生には印象深い体験だったようです。併せてわらじ製造実習も行いました。

そして本学余市果樹園でのリンゴ摘果実習、小果樹の多様性とその育種学習を行い、果樹作物の加工技術実習としてリンゴジャムを作りました。学生達は品種改良による食味の改善を実感しつつ、自作ジャムの味を楽しみました。

また、最先端の知見とマーケティングの学習として中央卸売市場を、先進農業学習としてロボットトラクターを、そして家畜排せつ物の有効再利用例として鹿追町のバイオガスプラントをそれぞれ見学しました。環境負荷を軽減しつつ再生エネルギーを生み出すバイオガスプラントは、シンガポールの将来へのヒントとなったようで、活発な質疑応答が行われました。

8月のシンガポールプログラムでは、狭い国土と乏しい天然資源という制限を乗り越える、開放型農場や、貨物コンテナを用いたキノコ栽培等のシンガポールの農業を学びました。また、NUSに隣接するアグロバイオインキュベーターでは、NUSが学生の起業を支援しており、人材育成への強い思いを感じました。

シンガポールは食料リサイクルにも熱心で、フードウェスト・ロスを減らすため、生ゴミの栄養分を昆虫に蓄積させ、昆虫食等に利用する技術開発に

取り組んでいます。また、周囲を海に囲まれているため、水産資源の利用改善にも積極的で、水産試験場ではDNAマーカーを用いた精密で迅速な食用魚類の育種が行われていました。これらによって、2030年までに国内食料自給率を30%とする「30 by 30」の実現を目指しています。

講義では各テーマについて学生達が活発に議論し、また両大学ともに現場での実習・見学の多いプログラム構成としたため、学生が実践的な研究や取り組みを体験し、座学で学んだ知識を具体的にイメージしながら理解、吸収していました。

学生達は、札幌とシンガポールでの生活やグループ活動の中で学び交流し、シンガポール独立記念日を共に祝福するなど親交を深めました。また、講義や活動の中で「なぜこのような取り組みをしているのですか？」との質問が多くありました。開催年数が重なるにつれ、本プログラムの目的が着実に学生へ伝わっている手応えを感じました。

（農学院・農学部）



北大プログラムでの北大余市果樹園における実習



北大プログラム修了の記念撮影



NUSプログラムでの組織培養実習

## メディア・コミュニケーション研究院が中国人民大学新聞学院と学術交流協定を締結

メディア・コミュニケーション研究院（以下、本研究院）、国際広報メディア・観光学院（以下、本学院）は8月5日（月）、中国人民大学新聞学院との間で学術交流協定を締結しました。

中国人民大学新聞学院と同大学新聞・社会発展研究センターの代表団6名（新聞学院副院長3名を含む）が本研究院・学院を来訪し、奥 聡研究院長が新聞学院の王 潤澤副院長との間で友好学術交流協定書に調印しました。

学術交流協定の締結を受け、本研究院と新聞・社会発展研究センターは共催で、「アジアのメディア変革と社会発展に関する国際学術研究会」を開催しました。冒頭、同センターの蔡 雯主任は、「私たちは、人類社会が直面する危機が深刻であればあるほど、真実を追求し、異なる意見を持つ人々のために対話のチャンネルを構築する責任あるメディアが求められている」と強調しました。奥研究院長も「両者の学術交流は今後、世界的課題を議論し、解決に導くヒントを提供するプラットフォームになるだろう。我々は、今回

の研究会のような議論の場をつくっていく使命があることを、この場で共有したいと考えている」と述べました。

同研究会では双方の教員計6名が研究報告を行いました。テーマは以下の通りです。

### 【本研究院】

- ▽于 海春助教「専門家によるソーシャルメディアを通じたCOVID-19情報の伝達：日本を事例に」
- ▽志柿浩一郎講師「従来のニュースを超えて：解説型ニュースとデジタルジャーナリズムの実践が情報・知識共有に与える影響」
- ▽城山英巳教授「戦後日本はどうジャーナリズムを確立させたか：1945年の連続性と変革」

### 【中国人民大学新聞学院】

- ▽王 潤澤副院長「ジャーナリズムのメタ・クエスチョンの実践的転換と価値の再構築」
- ▽李 彪副院長「中国輿論思想の変容とインターネット・プラットフォーム・ガバナンス」

▽許 向東新聞系主任「生成AIブームにおける一般ユーザーのメディアリテラシー」

本研究院・学院と新聞学院は今後の協力の方向性として、メディア・ジャーナリズムなどの分野で、学術交流や共同研究に関して連携強化を図ることで合意しました。

また、中国人民大学新聞学院と同大学新聞・社会発展研究センター代表団は8月7日（水）午前、高橋 彩理事・副学長を表敬訪問し、学術交流の強化を確認しました。

（メディア・コミュニケーション研究院、国際広報メディア・観光学院）

※中国人民大学新聞学院、同大学新聞・社会発展研究センターでは、学術交流協定の締結や国際学術研究会の内容などについて広報しました。

[https://mp.weixin.qq.com/s/KdfP\\_CHlkrWx-pjQtA3vfw](https://mp.weixin.qq.com/s/KdfP_CHlkrWx-pjQtA3vfw)

<https://mp.weixin.qq.com/s/0QXF1deFWYl-RBpJLsLqmYQ>



学術交流協定に調印後、握手する奥研究院長（左）と王副院長（右）



国際学術研究会に参加した本学と中国人民大学の教員



高橋理事・副学長を表敬訪問した中国人民大学代表団



高橋理事・副学長（右）と中国人民大学新聞・社会発展研究センターの蔡 雯主任

## 低温科学研究所がオホーツク生活文化振興財団と連携協定を締結

低温科学研究所は8月22日（木）、紋別市の道立オホーツク流水科学センターなどを運営する公益財団法人オホーツク生活文化振興財団と連携協定を締結しました。本協定は、これまでの協力関係をさらに深めることにより、研究成果の発信及び低温科学の啓発や地域振興等、互いの発展に寄与することを目的としています。

オホーツク流水科学センターで行われた締結式には、本研究所から渡部直樹所長、オホーツク生活文化振興財団から大塚夏彦理事長が出席し、協定書を取り交わしました。締結式におい

て、渡部所長は「この連携協定により、低温・寒冷圏の研究成果を活発に広報できるようになり、両機関の発展が期待できる。地域の学校への出前授業を行うなどして、多くの人に科学の面白さを知ってもらいたい」、大塚理事長は「最新の研究成果を市民へ共有する機会を持つことで、若い世代の人たちの研究・知見の手助けとなることを期待する」とそれぞれ抱負を述べました。

本研究所は、昭和40年に「北海道大学低温科学研究所附属流水研究施設」（平成16年4月に低温科学研究所附属

環オホーツク観測研究センターに転換）を紋別市に設置して以来、流水が地球環境や海洋生物に及ぼす影響などをテーマに研究を行ってきました。また、昭和61年から紋別市にて毎年行われている北方圏国際シンポジウムに参画するなど、両機関はこれまでも深い繋がりがありました。本協定に基づき、両者の交流がますます活発に行われることが期待されます。

（低温科学研究所）



締結式の様子



左から渡部所長、大塚理事長



## スラブ・ユーラシア研究センターがサマースクールを開催

スラブ・ユーラシア研究センターは、8月28日（水）・29日（木）に、JCREES（日本ロシア・東欧研究連絡協議会）との共催で「スラブ・ユーラシア研究サマースクール」を開催しました。JCREESとは、ロシア・東欧学会、日本ロシア文学会、ロシア史研究会、比較経済体制学界、日本スラヴ学研究会によって構成されるコンソーシアムで、設立以来、本センターが事務局を担当しています。このサマースクールは、2021年にロシア・東欧学会との共催で組織したことに端を発し、その精神を引き継いだJCREESとの共催は本年3回目、本センターとしては通算4回目の開催となりました。

本年度のサマースクールには、沖縄から北海道まで、日本全国各地の大学から37名の応募があり、選考の結果、

21名の学生（学部3～4年生10名、修士課程7名、博士課程4名）が採択されました。サマースクールは例年通り2部構成で、午前中はJCREES所属の各学会から派遣された講師6名による講義、午後は学生発表となりました。本年度の講師は、ロシア表象文化論（ロシア文学会）、東欧政治学（ロシア・東欧学会）、東欧文学（日本スラヴ学研究会）、バルカン地域言語学（センター）、ロシア経済（比較経済体制学界）、ロシア史（ロシア史研究会）の専門家が担当し、講義後の討論には、参加学生が積極的に参加しました。午後の学生研究発表も大変充実したものとなり、講師や学生による質疑応答では熱気に満ち溢れた討論が展開されました。本サマースクールの大きな目的は、学生が自身の専門分野への知見を深めること

は無論のことですが、それ以上に分野や地域を超えた様々な広がりを目を向けて研究に対する視野を広げ、積極的に意見交換することで学際的な展開の重要性を実感することにあります。講義や発表後の質疑応答や休憩時間の意見交換の様子などから、この目的は大いに達成できたようです。

参加学生や講師の一部は、自由時間を利用して、本学が所蔵する世界的に見ても特筆に値するスラブ・ユーラシア研究に関わる蔵書類の調査や資料収集を行ったり、担当講師ではないセンター教員に論文・進学指導を求めて滞在を延長したりなど、サマースクール以上の成果も得られたようです。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



開催後の集合写真

# 寶金清博総長が北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林を視察

5月28日（火）から30日（木）にかけて、北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林（以下、本研究林）を寶金清博総長、横田 篤理事・副学長、宮下和士北方生物圏フィールド科学センター長らが視察しました。

初日は、荒天のため羽田-南紀白浜空港間の搭乗予定便が欠航になるハプニングが発生。羽田からは新幹線や特急列車、車乗り継ぎ、20時に本研究林に到着しました（札幌を出発してから13時間の長旅）。

翌日、前日の天気が嘘のような晴天の中、視察が行われました。まずは山の神を祭る神社にて、新たに建てた鳥居の除幕式を行いました。続いて午前中は、森林管理について学ぶプログラムを視察しました。森を傷めない作業

道づくりや間伐作業などの説明を受けた後、間伐したスギを切り分ける作業（玉切り作業）を体験しました。

イノシシ汁の昼食休憩をした後は、南紀熊野地方の自然を学ぶプログラムの視察です。モノレールに乗り、コケに覆われた照葉樹の森を進みながら、ネズミやシカなどの生物調査、希少な動植物の観察など、本研究林ならではの自然学習プログラムを体験しました。その後、研究林庁舎に戻り、本研究林が近年力を入れている「山村での暮らしに関する学習プログラム」について説明を受けた後、その一部として棚田での田植えを体験しました。夜の懇親会では、気さくな寶金総長と横田理事・副学長のおかげで和歌山研究林職員一同、終始リラックスした楽し

い時間を過ごすことができました。

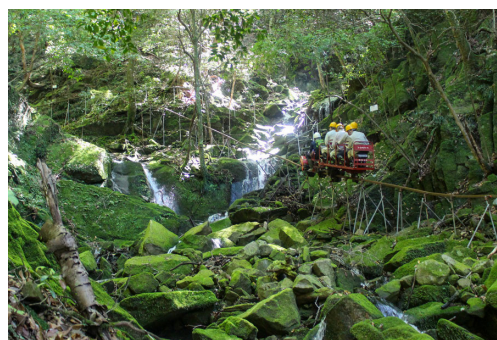
今回の視察により、本学唯一の道外教育研究施設である本研究林の取り組みと魅力を知っていただくことができました。寶金総長と横田理事・副学長からは温かいお言葉を何度もいただきました。遠く北海道の地から離れた場所ではありますが、本学の一員として、職員一同身の引き締まる思いです。

来年、本研究林は100周年を迎えます。フィールドでの研究と実践的教育の場として多くの方に利用していただけるよう、気持ちを込めて日々の業務に取り組んでいきます。

（北方生物圏フィールド科学センター）



玉切り作業を体験する寶金総長



モノレールに乗車して研究林を視察する寶金総長ら



田植え体験の様子



懇親会の様子



## 北管理部で初の北大研究林サイエンス体験ツアーを開催

8月2日（金）に、北方生物圏フィールド科学センター北管理部（名寄教育研究棟）の主催で、「北大研究林サイエンス体験ツアー」を開催しました。

今回のイベントは、以前参加費無料で開催したサイエンスCAFEの参加者からの要望を受けて実現したもので、有料でも良いので団体（特に子供）向けにより内容の濃いものを開催してもらえないかとの希望に沿って、美深町の団体からの北の森林プロジェクト

（フロンティア基金）寄附に対する返礼品として企画・開催したものです。

ツアー当日は、美深町自治会の19名の参加者に来ていただき、北管理部集合でイベントを実施しました。

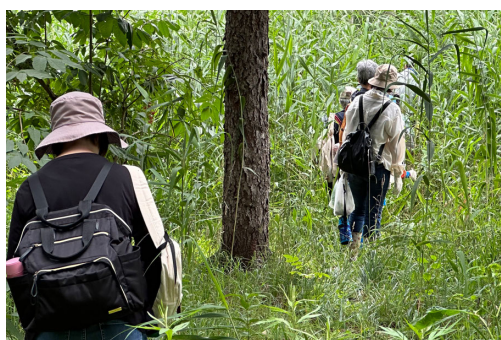
イベント内容としては、小さな森の探検や葉っぱ図鑑の作成、森のクイズ大会、焚火体験、顕微鏡による年輪観察と、大人も子供も満足な盛りだくさんなものとなりました。

特に、顕微鏡による年輪観察のイベ

ントでは、北管理部に所属している本学の有志の大学院生による説明も行われ、子供たちも興味津々で話を聞いていました。

これからも北管理部では、北の森林プロジェクトの充実を図るとともに、研究林の魅力や重要性を発信する窓口としての役割を担っていきたいと考えています。

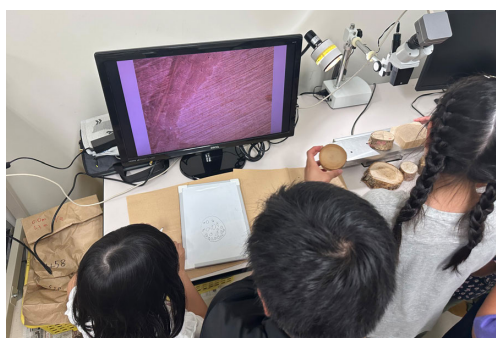
（北方生物圏フィールド科学センター）



小さな森の探検



葉っぱ図鑑の作成



顕微鏡による年輪観察



# 高尾医学大学前学長らが環境健康科学研究教育センターを訪問

8月6日（火）から7日（水）、台湾の高雄医学大学の楊 俊毓前学長、同大学先端環境医学研究所の洪 志興所長、許 世賢副所長をはじめとする7名の研究者が環境健康研科学教育センターを訪問され、Scientific seminar及び意見交換を行いました。

6日（火）はエンレイソウにてScientific seminarを開催しました。和やかなムードで記念撮影やご挨拶を交わされ、本学への訪問が叶わなかった台湾側参加

者2名もオンラインで参加されました。環境汚染物質や大気汚染と健康に関して、両機関から合わせて8題の発表があり、2時間に渡り活発な議論が行われました。

7日（水）は当センターにて意見交換を行い、今後の協力体制などについて話し合いが行われたほか、実験室での作業の様子も見学されました。また、白老町にある国立アイヌ民族博物館（ウポポイ：民族共生象徴空間）を

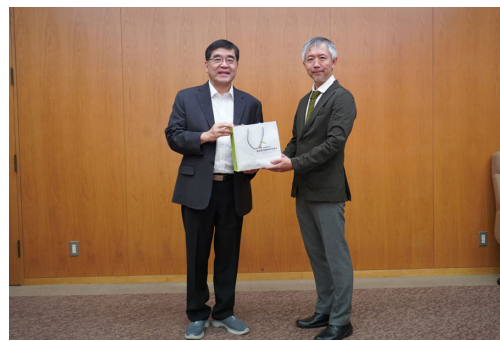
訪問し、佐々木史郎館長からご挨拶をいただいた後、視察を行いました。

令和6年3月には、当センターから山内太郎センター長、アイツバマイゆふ特任准教授、池田敦子国際連携部門長ら3名が高雄医学大学を訪問し特別講演を行っており、交流を深めています。今後、研究教育においてさらなる協力体制を築いていく予定です。

（環境健康科学研究教育センター）



記念撮影の様子



楊前学長（左）より山内センター長（右）へ記念品の贈呈



Scientific seminarの様子



意見交換の様子

## 学生相談総合センターピアサポートユニット留学生部門 （留学生サポート・デスク）主催の「流しそうめん大会」を開催

7月19日（金）、学生交流ステーションにおいて、学生相談総合センターピアサポートユニット留学生部門（留学生サポート・デスク）主催の茶話会「流しそうめん大会」を開催しました。

留学生サポート・デスク（学生交流ステーション1階）では、留学生を中心とする先輩学生が日本語、英語、中国語など様々な言語で留学生の日常及び大学生活に関する質問や相談に親切に応じているほか、様々な生活お役立ち情報を発信したり、茶話会やLanguage

Cornerなどのイベントを開催したりしています。

今回の「流しそうめん大会」は、“北海道の短い夏を楽しんでもらいたい”という思いを持ったスタッフたちが企画立案したもので、約40名の学生が参加しました。当日は、会場に流しそうめん用の竹を設置し、めんつゆの入った紙コップと箸を受け取った参加学生たちが、スタッフが一掴みずつ流すそうめんを、とまどいながらすくって食べていました。

初めて流しそうめんを体験する留学生が多く、そうめんを取りながら笑い声が溢れていました。

外は小雨が降っていましたが、中では留学生と日本人学生の交流が深まった様子がうかがえるイベントとなりました。

留学生サポート・デスクでは、これからも様々な交流イベントの開催を予定しています。

（学生相談総合センター）



スタッフがそうめんを流す



学生がそうめんをすくう



嬉しそうな学生



楽しそうな留学生

## 学生相談総合センター留学生相談室主催「ゼンゼミ2024」を開催

8月9日（金）、学生交流ステーションにて、学生相談総合センター留学生相談室主催「ゼンゼミ2024」を開催しました。ゼンゼミは、2012年から2017年まで年に2回、滝川市の禅寺で1泊2日の日程で行っていましたが、今回、それを1日の学内でのワークショップとして復活させたものです。

当日は、まず、ゼンゼミの目的や基本ルール等について確認したのち、アイスブレイカーを通して参加者がお互いを知る作業を行いました。続いて、

小グループに分かれ、チームワークを形成するエクササイズを行いました。午後には、シミュレーションゲームを行い、参加者がカルチャーショックを疑似的に経験し、その体験を振り返る機会をもちました。続いて参加者は、興禅寺の芳村元悟住職を講師に招いた座禅と、茶道の芳村敦子氏を講師に招いた茶道を体験しました。

今回は、合計13名の日本人学生と留学生が参加し、アンケートに回答した学生全てが、ゼンゼミに参加したこと

によって「多様な文化的背景を持つ学生との交流をもっとしたいと思うようになった」「文化の影響について、より考えるようになった」「自分自身の文化について振り返るきっかけになった」と回答しました。

学生相談総合センターでは、年間を通じて様々なワークショップを実施していますので、ぜひ学生の皆様にご案内ください。

（学生相談総合センター）



座禅体験中の様子



茶道体験中の様子



住職から座禅のマナーについて教わる学生



和菓子を受け取る学生



## ■お知らせ

### 被扶養者の要件の確認

文部科学省共済組合資格に係る被扶養者の要件の確認を本年9月中に行います。

ついては、現在認定を受けている被扶養者の資格確認に必要な書類※を被扶養者申告書に添付の上、所属している部局等の共済事務担当係へ速やかにご提出ください。

(※ 資格確認に必要な書類とは、所得に係る証明書類や住民票謄本及び在学証明書などの公的な書類のことです。)

また、転居により被扶養者の住所に変更が生じている場合は、本確認とは別に記載事項の変更に係る手続きをしてください。住所に誤りがある場合、国家公務員共済組合連合会より送付される「ねんきん定期便」が正しく届かない場合がございますのでご注意ください。(組合員の住所変更時も同様です。)

なお、被扶養者申告書に現在使用中の組合員証等の添付は不要です。被扶養者の要件の確認に係る詳細は各部局等の共済事務担当係までお問い合わせください。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

## ■ 表敬訪問

### 海外

| 年月日   | 来 訪 者                               | 来 訪 目 的     |
|-------|-------------------------------------|-------------|
| 6.8.7 | 中国人民大学（中華人民共和国） 蔡 雯 新聞・社会発展研究センター主任 | 今後の交流に関する懇談 |



蔡 雯 中国人民大学新聞・社会発展研究センター主任（左から4人目）

（国際部国際連携課）

# ■人事

令和6年8月12日付発令

| 新 職 名（発令事項）    | 氏 名     | 旧 職 名（現職名）                   |
|----------------|---------|------------------------------|
| 【教授】<br>（任期満了） | 山 本 直 樹 | 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授 |

令和6年8月13日付発令

| 新 職 名（発令事項）                          | 氏 名     | 旧 職 名（現職名） |
|--------------------------------------|---------|------------|
| 【教授】<br>大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授 | 今 井 太 志 | （採用）       |

令和6年8月31日付発令

| 新 職 名（発令事項）            | 氏 名     | 旧 職 名（現職名） |
|------------------------|---------|------------|
| 【役員】<br>（任期満了）         | 石 川 信 行 | 監事         |
| 【教授】<br>（転出）<br>九州大学教授 | 福 原 崇 介 | 大学院医学研究院教授 |

令和6年9月1日付発令

| 新 職 名（発令事項）          | 氏 名                | 旧 職 名（現職名）                |
|----------------------|--------------------|---------------------------|
| 【役員】<br>監事<br>監事     | 高 橋 朋 江<br>北 村 好 孝 | 北海道大学監事<br>北村好孝公認会計士事務所代表 |
| 【教授】<br>大学院情報科学研究院教授 | 松 元 慎 吾            | 大学院情報科学研究院准教授             |



## 新任監事紹介

令和6年9月1日付

### 監事に



きたむら よしたか  
**北村 好孝 氏**

令和6年8月31日限りで石川信行氏が  
任期満了となり、その後任として、北  
村好孝氏が発令されました。

任期は、令和10年6月30日までです。

### 略 歴

生 年 月 日 昭和43年9月5日  
平成 4年 3月 北海道大学経済学部卒業  
平成 7年 4月 センチュリー監査法人（現EY新日本有限責任監査法人）札幌事務所  
平成19年 7月 北村好孝公認会計士事務所代表  
平成23年 8月 監査法人ライトハウス理事長代表社員

## 新任教授紹介

令和6年8月13日付



公共政策学連携研究部附属  
公共政策学研究センター教授に

いまい ふとし 氏  
**今井 太志 氏**

### 生年月日

昭和47年9月20日

### 最終学歴

ミシガン大学公共政策大学院修了（平成14年4月）

### 専門分野

地方財政学

令和6年9月1日付



情報科学研究院教授に

まつもと しんご 氏  
**松元 慎吾 氏**

生命人間情報科学部門  
バイオエンジニアリング分野

### 最終学歴

九州大学大学院薬学府創薬科学専攻博士後期課程修了（平成17年3月）  
博士（薬学）（九州大学）

### 専門分野

放射線診断、生体計測、代謝変容

## 編集メモ

---

- 9月2日（月）より本学公式クラウドファンディングプロジェクト第7弾がはじまりました。  
詳細は、QRコードからご覧ください！

北海道大学クラウドファンディング  
<https://readyfor.jp/pp/hokudai>



- リテラポブリ最新号が発行  
広報誌「リテラポブリ」の最新号、Vol.73を9月に発行しました。  
今回の特集は「向き合う」をテーマに、人とクマとの共

存についての、本学の3つの取り組みを紹介しました。デジタル版も掲載していますので、ぜひご覧ください。  
<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html>

## 裏表紙メモ

---

今月のキャンパス風景は、工学部噴水です。  
空へ向かって吹き上がる水飛沫が日差しを受けて、小さな虹を形作っていました。金銀の砂子のように輝く水滴の間を吹き抜ける風の涼しさに、秋の訪れを感じます。



## キャンパス風景 54 工学部噴水（北13条西8丁目）



北大時報 ⑨ No.846 令和6年9月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-2092 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>